

2024 年度

日本電線工業会賞 委員会活動貢献賞 表彰式



心と心をつなぐインフラへ。

“つなぐ” 11月18日は電線の日

一般社団法人日本電線工業会

表彰式次第

日時 2025 年 6 月 6 日(金) 17:00～

場所 コートヤード・マリオット銀座東武ホテル 桜の間
(東京都中央区銀座 6-14-10)

開会の辞

第 1 回 日本電線工業会 委員会活動貢献賞

表彰状の授与

受賞者の言葉

第 2 回 日本電線工業会賞

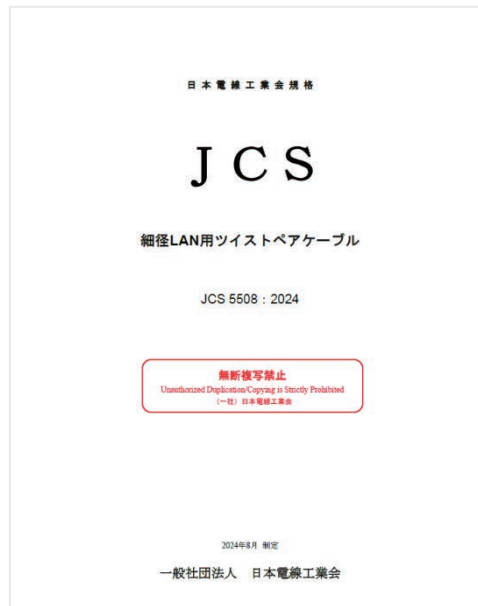
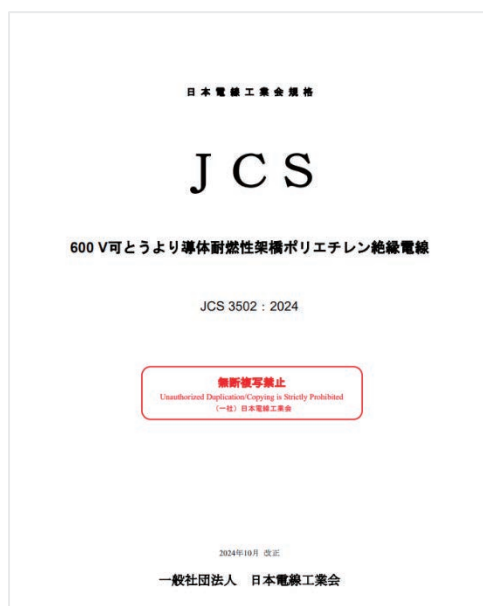
表彰状と副賞の授与

受賞者の言葉

第 1 回 日本電線工業会 委員会活動貢献賞

「JCS 3502 『600V 可とうより導体耐燃性架橋ポリエチレン絶縁電線』 制定」
産業用電線・ケーブル専門委員会 第二産業用電線・ケーブル小委員会

「JCS 5508 『細径 LAN 用ツイストペアケーブル』 制定」
通信ケーブル専門委員会 細径 LAN ケーブル JCS 化 WG



委員会活動貢献賞とは

委員会活動貢献賞は、日本電線工業会の委員会活動の活性化と参加委員のモチベーション向上を図ることを目的に 2024 年度に創設されました。日本電線工業会の委員会活動を通じ、電線業界へ貢献を残した委員会を表彰します。

記念すべき第 1 回委員会活動貢献賞は、2025 年 3 月 21 日開催の第 649 回理事会において、上記の 2 委員会が選定されました。

JCS(日本電線工業会規格)とは

(JCS: Japanese Cable Makers' Association Standard)

日本電線工業会により制定された規格です。主なものは、電線の製品規格や材料規格、試験・検査標準や技術計算標準ですが、電線包装用ドラムなど、電線関連製品の JCS も制定されています。

JCS は、JIS を補完する標準として又は需要家団体などの要請による個別の目的をもつ規格として国内で広く利用されています。

第1回 日本電線工業会 委員会活動貢献賞 表彰テーマ

(敬称略)

表彰テーマ

①「JCS 3502『600V 可とうより導体耐燃性架橋ポリエチレン絶縁電線』制定」

受賞者 産業用電線・ケーブル専門委員会 第二産業用電線・ケーブル小委員会

荒木 章吾 (主査)	株式会社フジクラ・ダイヤケーブル
佐藤 卓也 (副主査)	矢崎エナジーシステム株式会社
小嶋 一輝	SFCC株式会社
小林 豊	住友電工産業電線株式会社
市原 謙	タツタ電線株式会社
渡邊 勉	津田電線株式会社
里見 熙甫	一般社団法人電線総合技術センター
細谷 雅男	株式会社福電
茂木 優太	古河電工メタルケーブル株式会社
田中 祐太郎	株式会社プロテリアル

表彰テーマ

②「JCS 5508『細径 LAN 用ツイストペアケーブル』制定」

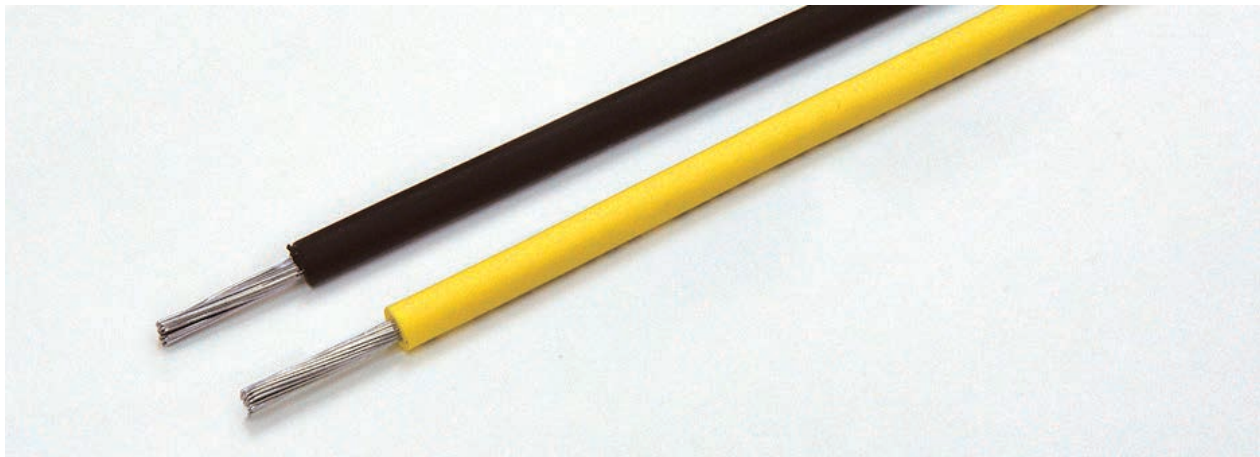
受賞者 通信ケーブル専門委員会 細径 LAN ケーブル JCS 化 WG

小川 宏 (主査)	富士電線株式会社
吉澤 武志	通信興業株式会社
原 隆幸	沖電線株式会社
伴野 善政	岡野電線株式会社
田中 祐太郎	株式会社プロテリアル

表彰テーマの内容

①「JCS 3502『600V 可とうより導体耐燃性架橋ポリエチレン絶縁電線』制定」

産業用電線・ケーブル専門委員会 第二産業用電線・ケーブル小委員会



600V 可とうより導体耐燃性架橋ポリエチレン絶縁電線（写真提供：古河電工メタルケーブル株式会社）

活動の背景

国土交通省の要請に応じ、既に各社各様の仕様で上市されている製品について、各社仕様の最大公約数（共通項）を纏め上げて規格化した。

「公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編）令和 7 年版」の改正スケジュールに間に合わせるため、規格制定作業期間としては短期間での作業を強いられたにも関わらず、まとめあげることができた。

活動によりもたらされた結果

当該製品が公共建築工事に使用できる製品として同仕様書上にリストアップされることとなった結果、2025 年度以降の公共案件における当該製品採用の道筋を付けることとなった。

受賞者代表一言

第二産業用電線・ケーブル小委員会は、産業用電線・ケーブル専門委員会の下部組織として、日本電線工業会規格（JCS）や技術資料などの制定・改正作業を担当しています。この度、国土交通省から既存の JCS 3417「600V 耐燃性架橋ポリエチレン絶縁電線」に可とう性を付与した絶縁電線の規格化の要請を受けました。既に各社各様の仕様で上市されている製品でもあったため、標準化と各社仕様の整合化の観点でのバランス取りに苦心しながら規格化作業を行いました。また、短期間で規格を制定し、「公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編）令和 7 年版」の改正スケジュールに間に合わせることであったため、当該製品が公共建築工事に使用できる製品として同仕様書上にリストアップされることとなりました。その結果、これまで公共案件に採用されていなかった当該製品の 2025 年度以降の公共案件における採用に道筋を付けることができました。

今回、このような委員会活動に対して、日本電線工業会 委員会活動貢献賞を受賞できたことは誠に光栄であり、委員各位の励みとなるものと存じます。今後も会員各社ならびにステークホルダーのご要望に迅速に応えるべく、委員会活動をより活性化させていく所存です。

②「JCS 5508『細径 LAN 用ツイストペアケーブル』 制定」

通信ケーブル専門委員会 細径 LAN ケーブル JCS 化 WG



細径 LAN 用ツイストケーブル



施工比較

活動の背景

LAN ケーブルについては、既に TIA や ISO にて規格化されている。細径タイプ(導体:26AWG、28AWG)については正式な規格が無い状況だった。しかし、細径 LAN ケーブルは日本が最も使用されているので、いち早く、国内での規格化をする目的で JCS 化に取り組んだ。

活動により期待される効果

規格がない分、既に市場で自社規格が流通している。規格化することで、LAN 市場での標準(統一)化が期待でき、国内の LAN ケーブル製造会社にとって製品仕様の指針になる。

28AWG(単線)での規格化は、本件が世界で初めての事例である。

受賞者代表一言

LAN ケーブルは、オフィスビルやデータセンター(DC)等に使用されており、市場の高速化要求により需要が伸びています。その中で、細径タイプとして JCS 5508 の規格を制定できたことに、感謝いたします。

今回の規格制定は、米国規格協会および米国通信工業会(ANSI/TIA)や国際標準化機構(ISO)を基に作成しましたが、28AWG(単線)での規格化は、世界初の事例となっています。この規格制定に携われたことは、非常に有意義な活動でした。今後も日本国内のさらなる発展に寄与できるよう尽力してまいります。

最後になりますが、本規格制定にご協力いただきましたワーキンググループの皆様および一般社団法人日本電線工業会 関係者の皆様に、感謝の意を表します。

第2回 日本電線工業会賞

協和電線工業株式会社 千葉工場

「超低温発生機 エアクーラーの導入による業務の合理化」

通信興業株式会社 川越本社

「アルペットテープ巻き返し機製作による工程改善」

明興双葉株式会社 電線事業本部・茨城工場

「自社技術を活用した『生産設備、治工具』の制作による生産効率改善の実現」

東京電線工業株式会社 那須工場

「電線押出機における芯出しロスの削減」

日本電線工業会賞とは

日本電線工業会は、日本で電線を製造している事業者を会員とする団体です。

日本電線工業会賞は、電線業界の社会的責任に鑑み、業界を挙げて優秀な従業員を表彰することで、会員各社の従業員の職務意欲の向上を図り、かつ会員各社の社会貢献及び人材確保に資することを目的として、2023 年度に設立されました。

第2回(2024 年度)に表彰されるのは、2025 年3月21日開催の第649回理事会において選定された上記、4会員の従業員の方々です。

第1回(2023 年度)日本電線工業会賞は、伸興電線株式会社と東京電線工業株式会社の2会員の従業員の方々が表彰されました。



第1回日本電線工業会賞表彰式

於:コートヤード・マリOTT銀座東武ホテル

2024 年6月6日開催

受賞テーマ

「年間平均製品在庫銅量 8%削減」

伸興電線株式会社 香川県さぬき市志度 1298-12

塚原由佳 社長室主任

塩田有起 生産管理課主任

受賞テーマ

「発注書・検収明細の送付対応と納期確認業務の効率化」

東京電線工業株式会社 東京都狛江市和泉本町 4-6-2

高橋幸子 業務部課長

米山清香 業務部主任

シュ ウェシン 業務部

第2回 日本電線工業会賞 表彰テーマ

協和電線工業株式会社

「超低温発生機 エアクーラーの導入による業務の合理化」

通信興業株式会社

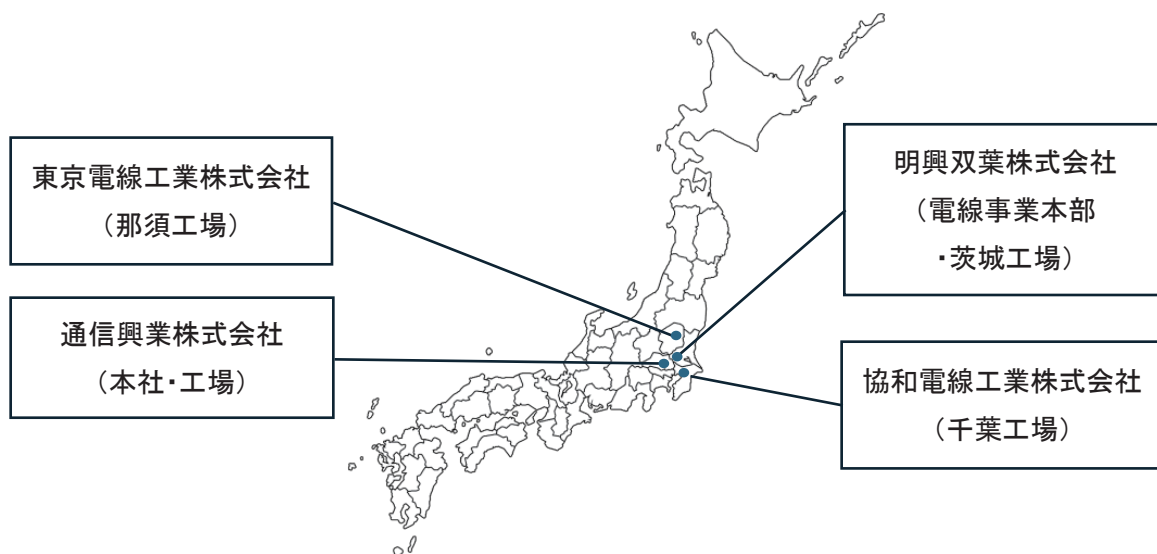
「アルペットテープ巻き返し機製作による工程改善」

明興双葉株式会社

「自社技術を活用した『生産設備、冶工具』の制作による生産効率改善の実現」

東京電線工業株式会社

「電線押出機における芯出しロスの削減」



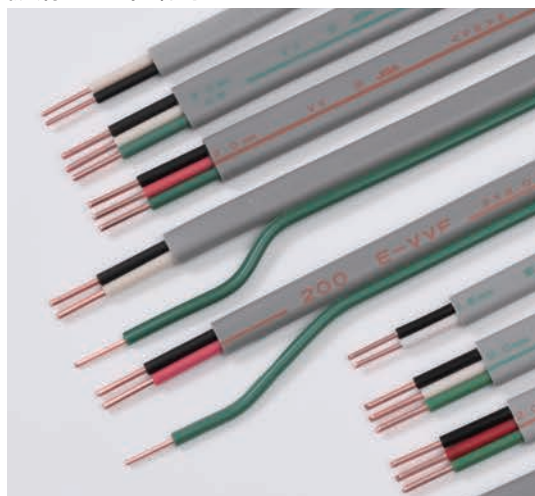


千葉工場 千葉県成田市成井 925

本社 大阪府八尾市曙町 1-7



本社外観



代表製品 VVF ケーブル

受賞者

奥野 絢也 千葉工場副工場長

香林 宏一 千葉工場製造部主任

表彰テーマ

「超低温発生機

エアクーラーの導入による業務の合理化」

受賞者一言(奥野 絢也)

課題解決によって目標(品質と生産性の向上、コスト削減)を達成できました。今は、工場内に空調システムが設置され、更に作業環境が良くなっています。

受賞者一言(香林 宏一)

スポットクーラーの代わりに、冷媒としてエアクーラーを選定しました。思っていた以上に、熱によるトラブルが解消できたことは良かったです。

背景

夏季は、より線機(バンチャー)内の温度が 45℃近くなり、稼働すると摩擦熱も加わり、被覆線のポリエチレン樹脂がパスラインに付着し、プレートアウトを生じるため、従来はスポットクーラーで冷却し対策していた。スポットクーラーは、ドレンタンクに溜まった水を捨てる必要があり、排水が手間であった。

改善策と結果

排水の手間を省くために、コンプレッサーのエアを供給するだけで冷気を発生するエアクーラーを取り付けた。製造工程において、熱によるトラブルが解消し労働生産性 10%向上、また経費の削減(不良ロス 3%削減)に貢献した。

推薦者 岡田永信 代表取締役社長

「現状に満足せず、今よりもっと良くできないか」と常に進化を目指しており、生産性や業務・商品の質の向上に繋がっている。更にデジタルツールを活用した業務効率や顧客接点を強化し、仕事の価値を高めてもらいたい。



通信興業株式会社

川越本社 埼玉県川越市の場 1735-2

東京営業所 東京都新宿区新小川町 7-17 飯田橋三幸ビル 2 階



川越本社外観



代表製品 TSUNET-10GE AWG23-4P

受賞者

旭 剛司 製造部工務課長

表彰テーマ

「アルペットテープ巻き返し機製作による
工程改善」

受賞者一言

当該設備のガイドロールに工夫をしたことで、
想定以上にテープが綺麗に巻けた事が意外
でした。この設備を作製することでアルペット
テープの巻き返しに余裕ができ、生産量アッ
プにも対応でき大変良かったと思います。

背景

アルペットテープを巻く製品の製造量が増加しており、そのテープが樽巻きで入荷してくるため、レコード巻きに巻き返している。巻取機、繰出機が各 1 台しかないため、1 回に 1 樽のみの巻き返ししかできない問題点があった。

改善策・結果

巻取機、繰出機を各 4 台製作し、1 度に 4 樽の巻き返しができるようにした。工夫点として、アルペットテープがぶれないようにガイドロールを山型にした。また、繰出しから巻き取りまでの距離を十分確保し、パスラインを安定させた。この巻取機導入による工程改善により、生産量は以前の 4 倍強となった。

推薦者 石橋栄子 代表取締役社長

高周波数帯域のケーブル需要が増加し、工程負荷が変わってきた。工程負荷が増加した部分を改善するために導入した巻き返し機により、製造工程全体の流れが良くなり、生産量アップにもつながり改善効果大であった。



MEIKO FUTABA

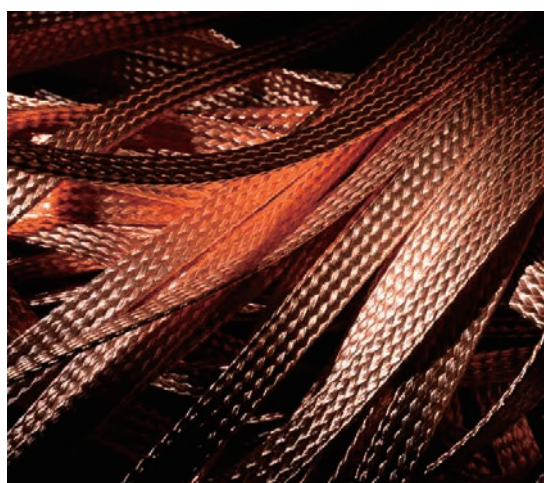
明興双葉株式会社

電線事業本部 茨城工場 茨城県常総市大生郷町 6140-1

本 社 東京都中央区京橋 2 丁目 6-14 日立第六ビル4F



茨城工場外観



茨城工場代表製品 平編銅線

受賞者

石塚 輝重 電線事業本部・茨城工場・工務課担当
荒井 忠 電線事業本部・茨城工場・工務課担当

受賞者一言

お客様や、社内からの要望に対し、設備や治工具の改良・開発を行ってきました。この様な荣誉ある賞をいただき、感激しております。より一層業務に励んでまいります。

表彰テーマ

「自社技術を活用した『生産設備、治工具』の制作による生産効率改善の実現」

背景

ロープより線の納期短縮が課題となっていた。ドラムの転倒作業に 3 人を要していた。

改善策・結果

基材ドラムのサイズ UP を測る(=孫より工程のドラムをそのまま使用する)ために、既存設備の外側にドラム設置装置と、単純構造にした転倒器を自社開発・製造し、ドラムの転倒作業を 1 名で対応できるようにした。この結果、ロープより線の 1 工程あたりの能力増強を実現し、段替え工数、段替え時の材料ロスを削減し、大幅な製造原価低減を達成した。

推薦者 萱野隆文 代表取締役社長

当社はチャレンジ精神、チームワーク、遊び心をスローガンに掲げ対応してまいりました。

この度の取り組みは、社員 1 人ひとりの創意工夫と挑戦の姿勢によって成し遂げられたものであり、まさに「現場力」が当社の支えであることを改めて感じております。

今後も、お客様のご期待にお応えし続けるために、現場の声に耳を傾け、自ら考え、行動する企業文化を大切にしながら、技術革新と品質向上に努めてまいります。



那須工場 栃木県那須郡那須町大字高久甲字道西 2691-5

本 社 東京都狛江市和泉本町 4-6-2



那須工場外観



代表製品

受賞者

畠山 誠 生産課生産一係 主任

鈴木 秀幸 生産課生産一係 係長

渡辺 直人 生産技術課担当

表彰テーマ

「電線押出機における芯出しロスの削減」

受賞者一言

この度は、このような栄えある賞をいただき誠にありがとうございます。

今後も身近にある問題点に対し、全員が常に当事者意識を持ち、生産性・効率性向上を目指し取り組んでまいります。

背景

本工程におけるロスの要因

- (1) 導線が被覆厚の中心にあるか確認するために、押出機から垂れ落とし部分(約 20 m)まで電線を流す必要あり(材料のムダ削減の必要性)
- (2) 移動距離が 20 m あるため、一度芯出し調整に 40 m(往復)移動する必要あり(時間のムダ削減の必要性)
- (3) 担当者の力量により確認回数も左右される(標準化の必要性)

検証

- (1) 垂れ流し部分まで待たずに、押出機の直後で確認できないか
- (2) 担当者の力量に関係なく、だれでも同水準で作業できないか

改善策・結果

専用の治具を製作し、押出機の直後で被覆のみを取り出し確認できるようにした結果、以下の成果が得られた。

・芯出しロスを約 5 分の 1 に削減 ・押出時間の短縮に成功 ・作業者力量の平準化達成

推薦者 高安晋一 代表取締役

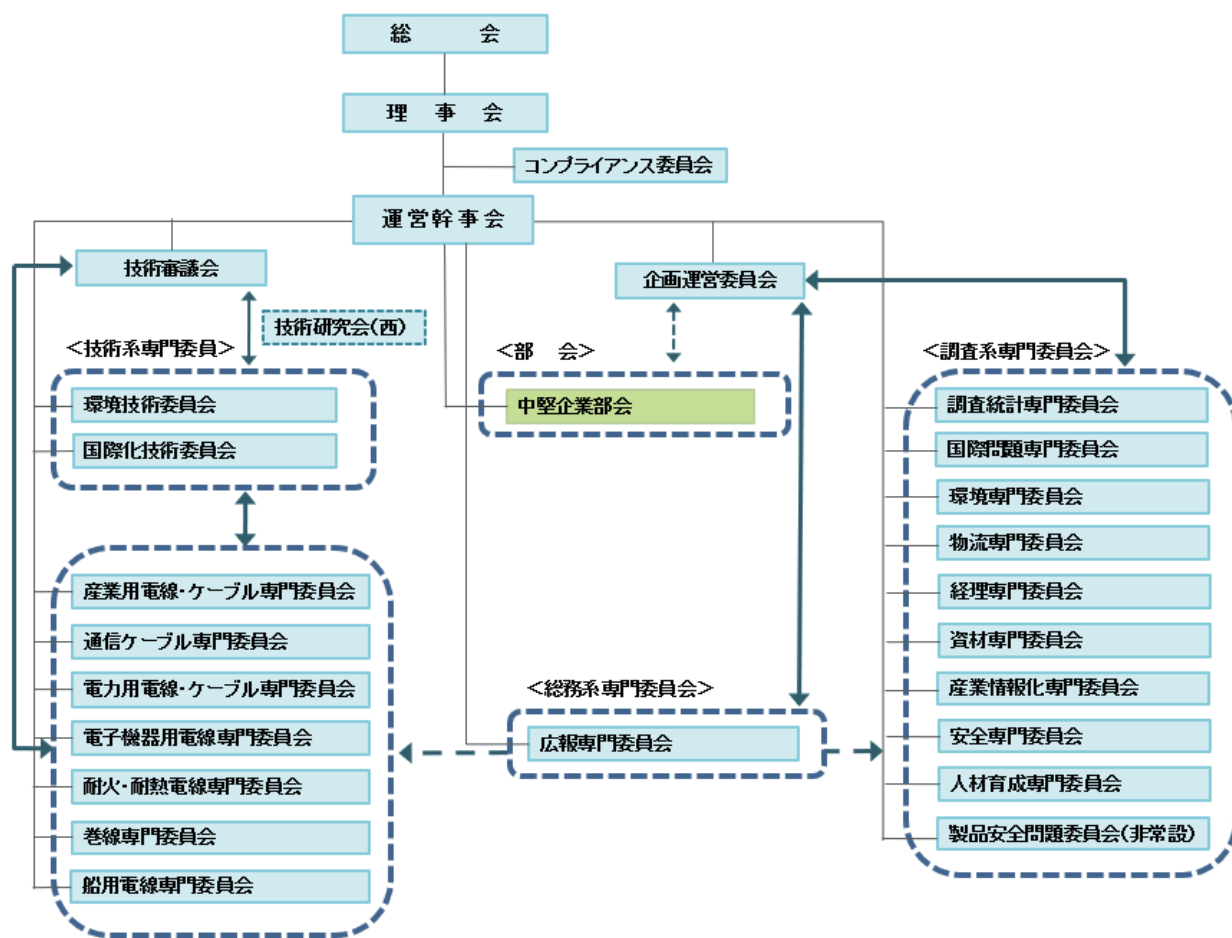
生産性・品質向上を念頭に「改善提案活動」を、年間を通して実施している。本提案はアイデアに優れ、時間短縮やコスト削減につながったことを評価する。

日本電線工業会とは

電線は現代社会において必要不可欠な社会基盤を支える重要な素材です。

日本電線工業会は、1948 年の設立以来、わが国の電線工業の健全なる発展を図り、もって日本経済の発展と国民生活の向上に寄与することを目的に活動をしています。

日本電線工業会は、会員社から委員の就任を得て構成される委員会活動により運営されます。運営の必要上、小委員会、WG(ワーキンググループ)、協議会等の下部組織が設けられる委員会もあり、活発な委員会活動が行われています。



2025 年 4 月 1 日現在

一般社団法人 日本電線工業会

本 部 東京都中央区築地 1-12-22 コンワビル 2F

大阪支部 大阪市中央区船場中央 2-1-4-301 船場センタービル 4 号館 3F





心と心をつなぐインフラへ。
“つなぐ” 11月18日は電線の日



11 月 18 日は電線の日とは

「11 月 18 日は電線の日」は、日本電線工業会が創立 70 年を迎えた 2018 年に、周年事業の一つとして制定されました。

電線の日は、電線製造と電線の安定供給に携わる人々を応援する日です。
そして、毎日の生活を支える電線に気づいてもらうための日です。

「11 月 18 日は電線の日」は、様々な電線を表す(111)と、あらゆるものにつながる無限大(8)を意味しています。